

問題だらけの「愛媛県地球温暖化対策実行計画(案)」

愛媛県は、2020年2月に策定した「地球温暖化対策実行計画」の定期的な改訂を行うため、10月13日から11月12日までの一か月間、県民からのパブリックコメントを募集しました。この改定案の中味の問題点についてまとめてみました。

国際的状況と目標の間に齟齬がある

今年の夏の気温上昇レベルは本当に異常で、来年にはパリ協定の気温安定化目標のレベルである1.5℃に一端到達してしまいそうなほど。世界のCO2排出を正味ゼロにしないと気温は上昇しつづけるため、直ちに正味ゼロに到達しないと「手遅れ」、なのに日本政府は2050年に日本が正味ゼロとなることを目指して、その時期まで直線的に減らすつもりで将来計画を立てています。

仮に次善の目標である2℃まで上昇してしまうと、気象災害の頻度が増えるだけでなく、熱帯の国々では人が住めなくなるほど熱波は拡がり、すでに臨界点を越えたと言われる西南極氷床の融解などで、海面上昇も予測以上に進むとされています。

12月開催のCOP28国際交渉では、世界全体の目標のチェック（おそらくは次善の2℃目標を削除して1.5℃を最終防衛線に強化するか？）の議論に入ります。今の政府の目標そのままの2030年46%削減の数字を県の目標値にしたのでは手遅れなことはあきらかです。

県は工業県であるにも関わらず、目標の内訳では、工業界には甘い数値目標を立てて、その分、家庭部門などの目標比率を厳しくしています。元々無理筋な経済成長率を前提にしているからでしょう。

見るべきものなし緩和策、適応策

有効な政策と措置を取らないから、これまで30年間温暖化対策は進まなかったのに、目玉となる改善案も見当たりません。なぜ対策が進まなかったのかの原因追究もされていません。厳しい数字だけ丸投げされても対策は進まないのです。

いよいよサバイバルの時代、気候災害をいかに生き延びるのかという「適応策」の文言にも見るべき

ものがありません。チェリー・ピッキング（自説に都合のよい根拠だけを選び取り、提示すること）すればいいのではなく、問題にはすべて対応しなければならないことが分かっていないのでしょうか？

ダムに頼らない住民参加の流域治水など、いろんな関連団体で取り組んでほしいものです。

この関連で、気候アクションを行いました



9月のNY国連総会で特設された「気候野心サミット」（招集したグテーレス国連事務総長は「地球沸騰化の時代」と発言したり、石油ガスの新規開発を中止すべきだ、正気の沙汰ではない、と批判の口調を強めています）を控えた9月18日、松山でも、伊予鉄市駅前でスタンディングをして、上記のパブコメの学習会（10月6日に生き活き政治ネットの事務所で実施）のチラシを配布する活動を行いました。武井県議をはじめ県内の「気候危機・自治体議員の会」の議員さん達と市民のチームで開催しました。

東京や大阪、神戸などでは、温暖化問題の市民グループが脱原発運動のグループとコラボして「ワタシのミライ」の集会を開催しました。

来年の「エネルギー基本計画」（資源エネルギー庁管轄）の3年ぶりの改訂に向け、エネルギー政策の民主化を求める？署名運動なども始まる予定です。

小倉 正 (XR四国)



武井たか子の「県議会報告会」を開催します。

新年早々の開催になりますが、どうぞお気軽にお越しください。

日時：2024年1月6日(土) 13:30~15:30

会場：松山市民会館2F第3会議室(松山市堀之内)

10月13日

映画「福田村事件」について語り合う会を持ちました。

映画「福田村事件」を観て想起したこと

「兵隊は見境なく女、こども、年寄りを殺した。わしはその死体を片づけさせられただけだア」と旅順虐殺を経験した老人は死ぬ前に語る。「韓国を併合してから、日本人は朝鮮人をずっと苛めてきた」「・・・提岩里事件ってあっただろう」と事件に加担したことを打ち明ける元教師。「ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥取られ・・・」と殺される前「水平社宣言」を暗唱する行商人。これらのせりふから分かるように、映画「福田村事件」は、大地震というカタルストロフ（大惨事）の中で庶民がデマを信じて狂人になるというだけの作品ではない。歴史的背景を想う。

1868年 明治政府成立（天皇制帝国主義国家）。
1894年 日清戦争（旅順虐殺）。1904年 日露戦争。
1910年 韓国併合。1919年 3.1独立運動、5.4運動、
提岩里事件。1922年 水平社宣言。1923年 関東大震災。

関東大震災時、支配層は植民地支配の過程で起こ

した虐殺への恐れから朝鮮人に報復されると信じ、官製デマ「混乱に乗じた朝鮮人が凶悪犯罪、暴動などを画策しているので注意すること」を流した。また、1923年以前から人々の内面には朝鮮敵視・蔑視が新聞等の情報で浸透していた。そして朝鮮人、中国人、社会主義者への官民一体の虐殺が起こった。実行者8人に実刑。3年後、大正天皇死去の恩赦で釈放された。

2人が乗る舟と静かな波。忘れられない映像だ。舟は時間、波は出来事のメタファー（暗喩）と受け止める。1923年9月の2人から「どこへ行くの？」「教えてくれないか」と2023年を生きる私は問われる。

「今もそんなに変わっていないんだ」と私は返答する。中国包囲網の構築。マスメディアの酷い中国敵視、朝鮮敵視報道。戦時体制へ移行している。排外主義が顕在化している。敵視・蔑視と憎悪が人々に広がっていないか。支配層に焚き付けられた「個」を飲み込む集団のエモーションはととても危うい。

「どこへ行くの？」。 谷口 博徳（世話人）

本の紹介

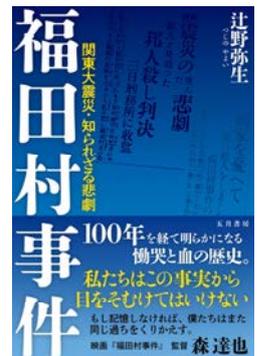
『福田村事件－関東大震災・知られざる悲劇－』

（辻野弥生著・五月書房新社 2023年7月刊 本体2000円）

関東大震災から百年目の今年に公開された映画『福田村事件』。137分という上映時間が、重苦しい緊張のうちに一気に過ぎていきました。見終わった後、一つの疑問が湧きました。「当事者たちのその後」についてです。普通の市民が、デマによる興奮のなか、殺戮者になってしまった。我に返ったとき、彼らはその後の人生をどう生きたのだろうか。そのことを知りたくて、原作資料である本書『福田村事件』を読みました。そして、映画では描かれなかった「その後」の真実に、愕然としました。虐殺をした彼らは、自分たちのしたことに正面から向き合うことなく、ある者は開き直り、罪を正当化し、また、周囲もそれを許したというのです。震災後に朝鮮人や社会主義者の虐殺に走った日本の各地でも、同様だったのではないのでしょうか。過ちを繰り返さないための検証は、当時、行われなかった。記憶にとどめようともされなかった。そうであるなら、過ちは何度でも繰り返されるでしょう。

改めて、過ちを繰り返さないための検証と記録が必要だと、強く感じました。多くの人に映画を観、本書を読み、この事件のことを語り合ってもらいたいと思います。きな臭い時代になってしまった今だからこそ。

大早 直美（世話人）



お知らせ



☐ 関東大震災「朝鮮人・中国人虐殺」を考える

日時：11月19日（日）14:00～

会場：オーガニックカフェ野芹（のさり）（二番町3-7-14）

主催：「天皇代替わり」と憲法の関係を考える会

（TEL 090-2781-7055 山中さん）

☐ 伊方原発運転差止訴訟 第38回口頭弁論

日時：11月21日（火）13:15 開廷 松山地裁

傍聴希望者は12:00までに裁判所ロビー集合

伊方原発運転差止訴訟 第39回口頭弁論

日時：12月12日（火）9:55開廷 松山地裁

連絡先：伊方原発をとめる会（TEL 089-948-9990）

☐ 「世界から見た日本のヒューマンライツ」

日時：11月23日（木・祝日）10:30～12:30

会場：日本キリスト教団 松山教会

主催：「武器としての国際人権」著者 藤田早苗さんと考える会（TEL 090-5272-8096 木下さん）

☐ 12・8 不戦のつどい「戦争と人権」

講師：木村真三さん（獨協医科大学准教授）

日時：12月8日（金）14:00～16:00

会場：コムズ5F大会議室 参加費500円

主催：松山市平和資料館をつくる市民の会

（taoreiko@yahoo.co.jp）

☐ 映画「ノルマル17歳」全国先行公開

ADHDの女子高生たちが生きづらさを解消する物語

日時：12月8日（金）～21日（木）12/10舞台挨拶

会場：シネマサンシャイン重信